

1. 南三陸町について
2. MVC ぶらんこについて
3. 南三陸町まちづくりプロジェクトの取り組み
4. 南三陸町まちづくりプロジェクト及びMVCぶらんこの活動に対する反響
5. ワールド・ビジョン・ジャパンについて
6. 東日本大震災緊急・復興支援事業について

#### 付属DVD

映像編 (10分32秒)

# + 南三陸町と ワールド・ビジョン・ジャパンによる 子ども参画の事例 ～南三陸町まちづくりプロジェクト 提案書提出後の取り組みと反響～

## + 南三陸町とワールド・ビジョン・ジャパンによる子ども参画の事例 ～南三陸町まちづくりプロジェクト提案書提出後の取り組みと反響～

2015年3月11日発行

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F  
TEL 03-5334-5350 (代) FAX 03-5334-5359

ホームページ <http://www.worldvision.jp/>

郵便振替 00130-6-254059

当団体は「認定NPO法人」です。  
皆さまからのご寄付金控除の対象となり、  
税制優遇措置を受けられます。  
本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

# 子どもに笑顔を！地域に夢を！ ～南三陸町まちづくりプロジェクト～

## 南三陸町まちづくりプロジェクトのきっかけ

2011年3月11日に発生した、東日本大震災。ワールド・ビジョン・ジャパンでは震災発生直後より、世界各地の緊急人道支援の現場で培ってきた経験を最大限に活かし、行政機関、企業、団体、NGO/NPOと連携して支援活動を行ってきました。震災によって大きな被害を受けた宮城県南三陸町で支援活動を行う中で、同町には「南三陸町ボランティアサークル（MVC）ぶらんこ」に所属し地域活動を行う中高生のジュニア・リーダーがいること、震災によりMVCぶらんこの活動場所やジュニア・リーダー研修の機会が減少していることを知りました。そこで、南三陸町教育委員会に対し、ジュニア・リーダー研修の一環として、復興計画に子どもたちの意見を反映する活動を行うことを提案し、『子どもに笑顔を！地域に夢を！』南三陸町まちづくりプロジェクト」に取り組むことになりました。

子どもは地域の将来を担う貴重な存在であり、地域の未来を築く未知数の潜在能力を持つ存在です。この将来の担い手の意見を復興計画に反映させることは、地域の未来を考えていく上で欠かせないことです。

## 2012年6月、町長に提案書提出ーその後の取り組み

南三陸町まちづくりプロジェクトは、準備期間ののち、2012年1月から本格的に始動しました。10回以上のワークショップと2回のイベントを通じ、MVCぶらんこ自身が南三陸町の復興について考え、話し合い、集約した意見を提案書としてまとめ、2012年6月に南三陸町長に提出しました1。

南三陸町まちづくりプロジェクトを通じて、子どもたちのため、

町のために自分たちに何ができるか考え、行動するというMVCぶらんこの取り組みは、周囲の人々に笑顔や勇気を与えているばかりでなく、子どもたちが地域の一員であり、町の復興を目指すパートナーであることが認められるきっかけとなりました。

本報告書は、提案内容の具体化と将来の提案実現に向けて活動を続けるMVCぶらんこのその後を、2014年度の活動を中心にまとめたものです。南三陸町の復興を子どもたちが考え、地域で実際に復興に携わる方々と意見交換し、さらに自身の震災体験を「語り部」として語りました。「子どもに笑顔を、地域に夢を」。子どもたちを笑顔にしたい、その思いから始まった活動は、町内外の人々へも伝わり、活動の場が大きく広がっています。

このMVCぶらんこの取り組みが、皆さまにとって、子どもたちの持つ力や、子ども参画の意義について、いま一度捉え直すヒントとなれば幸いです。ワールド・ビジョン・ジャパンは、子どもたちが意見を述べ、大人と対等に語り合い、より良い地域の実現に向けた活動に参画していくことができるような地域が日本全国に広がることを願っています。

1 ワールド・ビジョン・ジャパンは、このプロジェクトを子ども参画の事例として広く活用していただくため、2012年7月までの一連の活動の記録をまとめた報告書「南三陸町とワールド・ビジョン・ジャパンによる子ども参画の事例～南三陸町まちづくりプロジェクト～」を2012年12月に発行しました。

<http://www.worldvision.jp/support/pdf/machipro.pdf>



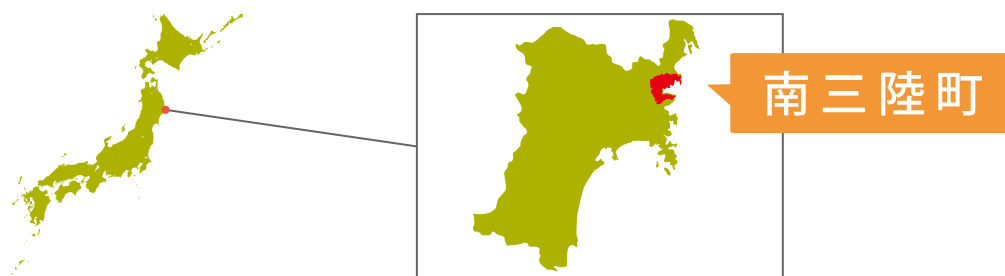
ワールド・ビジョン・ジャパン  
とMVCぶらんこ

2012年3月25日撮影

# ① 宮城県南三陸町について

## 南三陸町とは

南三陸町（みなみさんりくちょう）は、日本の宮城県北東部に位置し、太平洋に面する漁業の盛んな地域です。東日本大震災により、町内の62%もの家屋が損壊するなど、壊滅的な被害を受けました。



震災前



佐良スタジオ

震災後



佐良スタジオ

## 東日本大震災概要

発生日時／2011年3月11日 14時46分頃

震源地の深さ／約24km

最大震度／震度7（栗原市）南三陸町震度6弱

震央地名／三陸沖

規模／マグニチュード9.0

## 南三陸町の被害状況（2014年9月30日現在）

### 地区別建物被害（概数）

志津川地区…2,048戸（り災率約75%）

戸倉地区…526戸（り災率約75%）

入谷地区…8戸（り災率約2%）

歌津地区…723戸（り災率約55%）

計3,311戸（り災率約62%）

### 南三陸町全体の住宅被害

全壊、流出3,143戸

（2011年2月末日現在の

住民基本台帳世帯数の58.62パーセント）

大規模半壊178戸

（2011年2月末日現在の

住民基本台帳世帯数の3.32パーセント）

### 人的被害

死者620名

行方不明者215名

## ② MVCぶらんこについて

### 南三陸町ボランティアサークル(MVC)ぶらんことは

約 40 年以上前から、志津川町ボランティアサークルありんこ、歌津町ボランティアサークルどろんこのジュニア・リーダーが活動してきました。2005 年 10 月 1 日に志津川町と歌津町が合併し南三陸町が誕生した後は、翌年から MVC ぶらんことして活動を開始。2015 年 2 月 1 日現在、44 名の中学生・高校生が登録し、地域の子ども会活動にとどまらず、宮城県内外で行われるジュニア・リーダー研修会や各種事業のボランティアスタッフなど、積極的な活動を行っています。

(出典：「南三陸町ジュニア・リーダー MVC ぶらんこ～字かけ・汗かけ・恥をかけ～」より抜粋・更新)

※ジュニア・リーダーとは・・・地域で活動している青少年のボランティア団体で、子ども会活動や地域活動の振興を図るため、子ども会活動の支援および地域活動を行う、中学生・高校生・勤労青年などの年少指導者です。



### 南三陸町ボランティアサークル (MVC)ぶらんこ

ジュニア・リーダー卒業式

### MVCぶらんこの主な活動内容

#### ●南三陸町教育委員会が主催する事業への参加協力

- J L 初級研修会 (8 月)
- 本別・南三陸ふるさと交流研修会
- 山形県庄内町・南三陸町小学生ふるさと交流会
- J L 卒業式

#### ●南三陸町子ども会育成会連絡協議会が主催する事業への参加協力

- 地区子ども会活動 (いも煮会、クリスマス会など)
- 子ども会リーダー研修会 (町教委共催事業)

#### ●宮城県教育委員会が主催する事業への参加

- J L 中級研修会
- J L 上級研修会

#### ●宮城県子ども会育成連合会が主催する事業への参加

- J L 代表者会議
- J L 技術研修会
- みやぎの J L 大会

#### ●他の機関等が主催する事業への参加

- たつがねマウンテンバイク 大会ボランティアスタッフ
- 東北地区子ども会 J L 大会



地域の子ども会の  
クリスマス会を盛り上げる MVCぶらんこ



山形県庄内町と南三陸町の  
小学生の交流会を手伝うMVCぶらんこ



北海道本別町のジュニア・リーダーと  
ともに研修を行うMVCぶらんこ

### ③ 南三陸町まちづくりプロジェクトの取り組み

2012年1月から始まった「南三陸町まちづくりプロジェクト」。MVC ぶらんこが町の復興についての子どもたちの声をまとめた「南三陸町まちづくりに対する提案書」を2012年6月に町長に提出したことは、大きな一歩となりました。復興への道のりは長いけれども、自分たちにできることに取り組んでいきたい。そんな思いで、MVC ぶらんこは、将来の提案実現に向けた活動を続けています。提案書提出までの流れと、その後について、時系列でまとめました。

被害を受けた南三陸町志津川公民館



津波が襲来する様子



撮影：及川清隆

#### ワークショップ開始!



2012年1月15日  
初めてのワークショップを、南三陸町で唯一被災しなかった入谷公民館にて行った。

#### 南三陸町長と意見交換会



2012年1月29日  
MVC ぶらんこが考えたまちづくりのアイデアを南三陸町長に提案し意見交換を行った。

#### 子どもたちのまちづくり意見交流会



2012年3月25日  
MVC ぶらんこのまちづくりのアイデアについて、町内の人々、子どもたちに発表し意見交換を行った。

#### 南三陸町長に提案書を提出



2012年6月30日  
MVC ぶらんこから南三陸町長に対し、南三陸町復興計画に対する提案書を提出した。

#### 同年代の中高生との交流事業 in 東京



2012年6月23日  
東京国際フォーラムにて、関東近県で地域活動を行っている同世代の中高生と交流事業を行った。

#### 町内での聞き取り調査



2013年12月14～15日  
町内で多世代の交流に取り組む7つの団体や施設を訪問し、「多世代の交流が盛んになるためにどんな取り組みを行っているか?」「多世代の交流を盛んにするために一緒にできそうなことはあるか?」などについて聞き取りを行った。

#### 同年代の中高生との交流事業 in 南三陸



2013年10月12～14日  
東京・神奈川の中高生との交流事業(WVJ主催:南三陸を学ぶ～いま私たちにできること～)の中で、MVC ぶらんこメンバーが震災体験の「語り部」に挑戦した。

#### まちづくり協議会との意見交換会

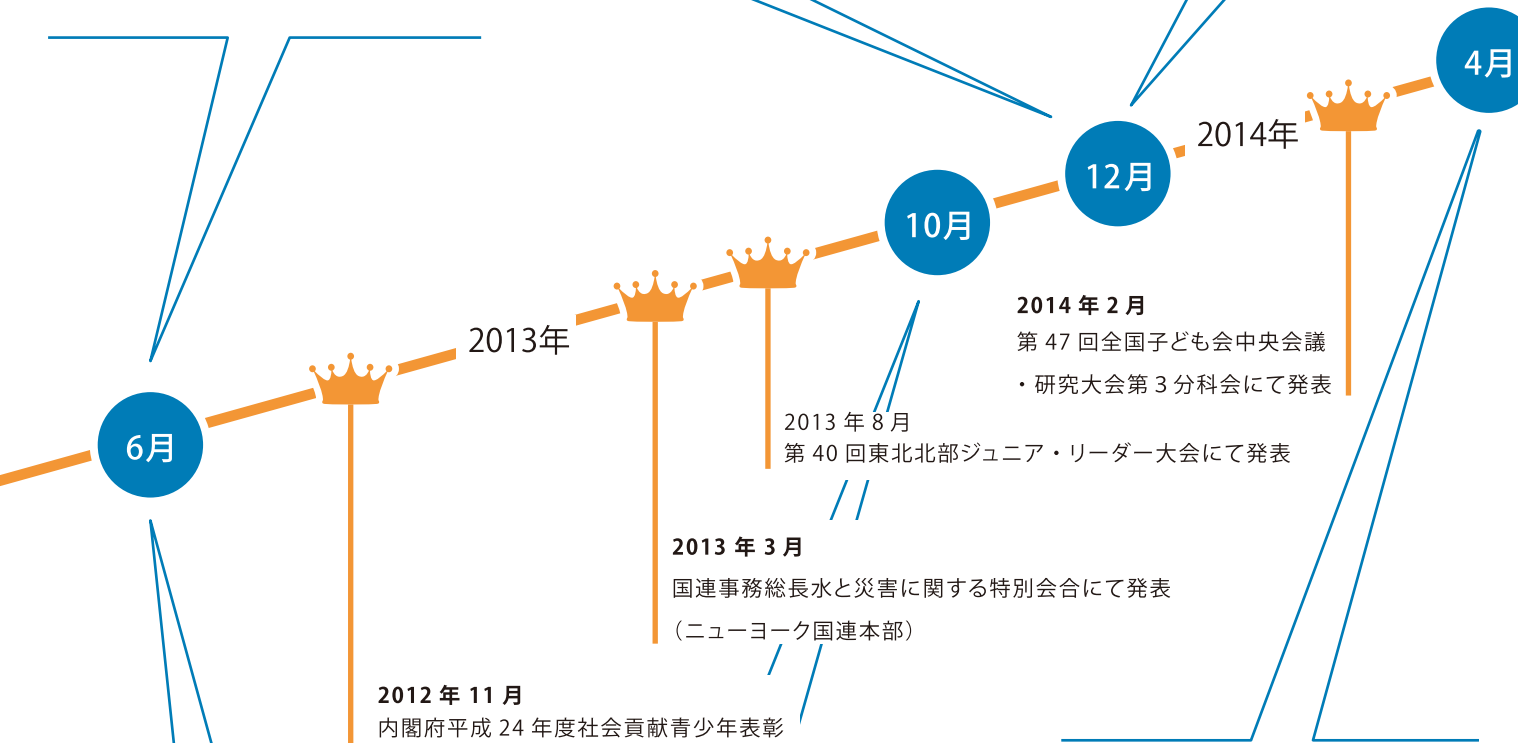


2013年12月15日  
南三陸町まちづくりプロジェクトの取り組みを知った「志津川地区まちづくり協議会」の発案で、12/15の協議会にMVC ぶらんこから代表4名が参加し、南三陸町のまちづくりについて意見交換を行った。

#### 教育長に活動報告



2014年4月4日  
2013年度の活動概要と次年度以降の目標をまとめた活動報告を教育長に提出した。



#### 2014年度以降のMVCぶらんこの目標(概要)

南三陸町に「元気と明るさと笑顔」を増やすために、高齢者、大人、子どもなど、様々な世代の交流を進め、つながりを増やすことが大切だと考えます。また、2013年度に実施した町内での聞き取り調査や意見交流会を通じて、MVC ぶらんこが大人と子どもの架け橋として町内外でできることはたくさんあると感じました。このため、子ども会育成会へのボランティア協力の継続実施、多世代が気軽に参加できるイベントの企画・実施、震災体験談の町内外への発信等の活動について、実施方法を検討し、できることから始めていきたいと考えています。

●私たちの活動の意味やボランティアの大切さを町内の小・中学校、高校にもっとPRし、震災のために減少したジュニア・

リーダーの会員数を少しずつ増やしたいと考えています。また、震災により志津川公民館がなくなったことで減少している技術研修会や定例会を増やし、ジュニア・リーダーの技術力をアップし、自信を持って子ども達と交流できるようにしたいと考えています。

●これらの取り組みを進めることで、私たち自身が、町の中でつながり増やし、自分達なりに町に「元気と明るさと笑顔」を提供していきたいと考えています。そして、いつか公民館を作るようになったときに、町の方々から「MVC ぶらんこの意見も聞いてみよう」と思ってもらえるように、活動を継続していきたいと考えています。

#### 積極性と自主性が培われたように感じられます

東日本大震災後、『南三陸町まちづくりプロジェクト』において、ジュニア・リーダーの子どもたちが町民のためになる町づくりを深く思索し、子どもたちの視点による提案書を町に提示するまでに至ったかけがえのない時間は、子どもたちにとって、町の復興を担う一員として認められたという自負心とともに、何事にも進んで意欲的に取り組もうとする積極性と自主性が培われたように感じられます。将来、この子どもたちが町の復興を担う大人としてのパートナーとなる頃、自分たちが提案したこと多くが実現されるように、この子どもたちと手を取りあい町の復興に尽力していくとともに、子どもたちの更なる活発なジュニア・リーダー活動の展開に期待しております。



南三陸町教育長  
佐藤 達朗

#### 2013年度会長



MVC ぶらんこ  
後藤 友花  
(じゃんぷ)

南三陸町まちづくりプロジェクトの取り組みは、私たち中高生の町への意識を変えるものでした。町の復興に目を向けて自ら考え、行動するこの活動を通して町の復興のために何かをしたいという思いと、この南三陸町が好きであるという思いが高まりました。私たち中高生は、町の復興を担う存在だと言われていきます。これから先、町の復興に向け、このプロジェクトで決めたMVC ぶらんこが実行することの実現に向けて、後輩たちに頑張っていてほしいと思います。

#### 2014年度会長



MVC ぶらんこ  
佐藤 可奈子  
(スカイ)

私は、5年間ジュニア・リーダーを続けてきましたが、南三陸町まちづくりプロジェクトは、とても良い経験となりました。今年度は、MVC ぶらんこが実行することの実現に向けて、子ども会や地域のイベントの手伝い、南三陸わらすこ探検隊への参加などいろいろと頑張ってきました。子どもたちとふれあっていると、「子どもに笑顔を!地域に夢を!」という言葉が思い出されました。これからも南三陸町の子どもたちを笑顔にし、地域に夢を与えるように精一杯努力をし、MVC ぶらんこの実行することの実現に向けて、頑張っていきたいと思っています。

## 4 南三陸町まちづくりプロジェクトおよび MVCぶらんこの活動に対する反響

南三陸町まちづくりプロジェクトを通じて、MVCぶらんこは町内外の多くの方々と出会い、交流が生まれました。それは、MVCぶらんこにとって刺激となっただけでなく、出会った方々にも様々な影響を与えています。

### 子どもたちとの交流が励みになる

私たちは、積極的に町内外の子どもたちのボランティアを受け入れています。漁師さんがこれだけ頑張っているんだよという姿を見てもらい、おうちに帰ってご両親にそのことを伝えて欲しいからです。

また、子どもたちが来るというだけで、私たちには刺激になり、励みになります。

私たちは私たちの立場で一生涯懸命仕事をしていますし、子どもたちはその立場で活動しています。

子どもたちとの交流は、私たちの励みにもなりますし、子どもたちにとっては10年後20年後に大きな学びとして返ってくると思います。



宮城県漁業協同組合 志津川支所 支所長代理  
阿部 富士夫さん

日頃から町内でMVCぶらんこの活動を応援。2013年10月には、東京・神奈川の中高生とMVCぶらんこメンバーに対し、漁業の体験学習を実施し、わかめの芯抜きボランティアとして受け入れた。

### 子どもたちが自主的に行動を取るようになった

南三陸町まちづくりプロジェクトについて知った東京・神奈川の中高生は、大きな影響を受けました。あれだけの災害を経験しても、前向きに自分たちができることを考え行動しているMVCぶらんこの姿を見て、勇気を得たのだと思います。南三陸町から戻った後、ちょうふこどもネットのメンバーに、「自分にもできることがあるんだ」という気持ちが芽生えたように思います。日常の活動に益々積極的に参加するようになったり、自主的なイベント企画や外部の青少年団体と交流を持つなど、目に見えて変化が現れています。

MVCぶらんこの皆さんは、意識していないかもしれませんが、自分たちの活動が周りに大きく影響を与えていることに誇りを持ってほしいです。



NPO法人 ちょうふこどもネット  
北村 真さん

2013年10月に実施した東京・神奈川の中高生とMVCぶらんこの交流事業に、ちょうふこどもネットの引率者として参加。

一般社団法人南三陸町復興推進ネットワーク  
代表理事 及川 博道さん

日頃から「南三陸わらすこ探検隊」等を通じてMVCぶらんこと共に活動。2013年12月に行われた「志津川地区まちづくり協議会」とMVCぶらんことの意見交換会に協議会事務局として同席した。

中高生だからこそ思うこと、言えることがあると思います。中高生の皆さんが、今思うことを言葉にしていけることが大事だと思います。

その中で、思うようにいかないこともあるかもしれませんが、それも貴重な体験ですので、積極的に意見を言って、たくさんの方にチャレンジしてほしいです。その積み重ねが、より良いまちづくりにもつながっていくのだと思います。

### MVCぶらんこ担当者より

南三陸町教育委員会 MVCぶらんこ担当  
阿部 孝文

南三陸町まちづくりプロジェクトに取り組み始めてから、早いもので3年が経ちました。このプロジェクトに出会ってから、MVCぶらんこのメンバーの町への意識が変わりました。「自分たちにも町の復興ができるんだ」という意識です。「町民同士のつながり（多世代交流）を増やすために」JL自身が今できることは何かを考え、町民及び地域への貢献方法について自ら考えるようになりました。また、このプロジェクトを通じて、いろいろな人との出会いがあり、外との繋がりができ、JLの活動の幅も大きく広がりました。



まちづくりプロジェクトの今後の活動について話し合うMVCぶらんこ

プレイグラウンド・オブ・ホープ  
代表 マイケル アナップさん

2013年3月に「国連事務総長水と災害に関する特別会合」にてMVCぶらんこによる発表の際、ボランティアで英語スピーチ指導を行った。自身の団体では被災地に遊具を寄贈する活動を行っている。

子どもたちや中高生がまちづくりに関わることは、本当に素晴らしいことだと思います。子どもたちの目から見えるものと大人の目から見えるものは、大きく異なります。そして、これからの町を担っていくのは彼らです。中高生の意見をまちづくりに取り入れることは、まちにとっても、中高生自身にとっても、大切なことです。

提案書で示した内容の実現に向け取り組んできた活動は、町内外の復興に取り組む団体や社会教育団体からも注目を集めています。

「子ども白書2014」（日本子どもを守る会：編）にも取り上げられ、日本中に活動の内容を発信することができました。町の復興を担う一員として、「MVCぶらんこが実行」することの実現に向けて、更なる進化を遂げ、「元気と明るさと笑顔」を提供できるように、日々努力して、自分たちにできることに取り組んでいきたいと思っています。



2014年4月、教育長に1年間の活動報告をした後のMVCぶらんこ

### MVCぶらんこの活動が、他の地域の中高生の活動の原動力に

2013年10月12日～14日に、東京・神奈川で日頃青少年活動を行っている中高生たちが南三陸町を訪問し、MVCぶらんこをはじめ、復興に取り組む町の方々と交流する「南三陸を学ぶ～いま私たちにできること～」（主催：ワールド・ビジョン・ジャパン、後援：南三陸町教育委員会、公益財団法人よこはまユース）を開催しました。



杉並区立 児童青少年センター（ゆう杉並）  
中・高校生運営委員会委員 堀米 聖さん

### 「中高生がつながれば、大きなことができるはず」

ゆう杉並中・高校生運営委員会では、以前から、中高生の力で何か大きなことに取り組みたいという思いを持っており、その実現に向けて、まずは中高生が集まってつな



杉並区保健福祉部児童青少年課  
柴田 幹紀さん

### 「大人の連携も大切」

中高生はきっかけさえあれば、大人が想像もしないような成長をする力を持っています。大人の役割は、そのきっかけづくりや後押しをすることではないでしょうか。将来を担う子どもたちが活動し力をつけられる場を用意すること、またそうした場を通じて子どもたちを育むことが、社会全体にとって重要であることを、子どもに関わる様々な団体が連携して発信していくことが大切だと思います。

交流事業を通じて、東京・神奈川の中高生は、同年代のMVCぶらんこメンバーから、震災にまつわる体験談や復興への取り組みを聞き、多くの刺激を受けました。南三陸町からそれぞれの活動場所へ戻った後、彼らに起こった変化をご紹介します。

ることが必要だと考えていました。南三陸町での交流事業には、外とのつながりを作る良い機会と思って参加しましたが、参加してみて、MVCぶらんこの活動に驚きました。震災後の混乱の中、自分たちで考えて動くとしたこと、限られた人数で大きなことに取り組み、発信していること。中高生でもしっかりした考えがあれば大きなことができるということを知りました。

南三陸町から戻った後、「あの人たちがすごい、僕らもやっぺいこうよ」と、自分たちの気持ちが盛り上がりました。南三陸での体験を周囲にも話したことで、南三陸に行かなかった仲間も刺激を受けていました。

こうしたことが後押しとなって、2014年3月に、以前からのアイデアを具体化した「首都圏中・高校生懇談会」を開催することができました。大きな目標に向けて、第一歩を踏み出せたと感じています。

### “中高生がつながれば、何かできるはず”



#### 交流事業in南三陸町

- ・他の地域の仲間との信頼関係
- ・自信
- ・意欲

#### 自主性 行動力

#### 積極的に“外”とのつながりを構築

- 例
- ・首都圏中・高校生懇談会の発足
  - ・合同イベント「青春祭」の企画・実施（2015年1月25日）等



## ⑤ ワールド・ビジョン・ジャパンについて

### ワールド・ビジョン・ジャパンとは

ワールド・ビジョンは 1960 年代、日本でも両親を亡くした子どもたちが生活する施設などを通じて子どもたちへの支援活動を行いました。その後、日本の経済成長と内外の海外支援に対する気運の高まりとともに、1987 年 10 月に「ワールド・ビジョン・ジャパン」が設立され、独自の理事会を持つ組織として活動を開始しました。1999 年に特定非営利活動法人の認証を得、法人格を持つ民間援助機関としてその歩みを進めています。2002 年 5 月、国税庁より「認定 NPO 法人」に認定され、これ以降団体への寄付金は、税制上の優遇措置を受けられるようになりました。また、その後の NPO 法改正を受け、2014 年 8 月には東京都より改めて認定されています。



### ワールド・ビジョンのはじまり

ワールド・ビジョンの活動は、アメリカ生まれのキリスト教宣教師ボブ・ピアスによって始められました。彼は、第 2 次世界大戦後に混乱をきわめた中国に渡り、「すべての人々に何もかもはできなくとも、誰かに何かはできる」と考えるようになりました。中国で出会った 1 人の女の子の支援を始めた彼は、より多くの支援を届けるため、1950 年 9 月、アメリカのオレゴン州で「ワールド・ビジョン」を設立。朝鮮戦争によって両親を亡くした子どもたちや、夫を亡くした女性たち、ハンセン病や結核患者に救いの手をさしのべることから始まった活動は、現在では、約 100 カ国で展開するまでになりました。



### 開発援助

子どもたちの健やかな成長を目指して地域の自立的発展を支援する、チャイルド・スポンサーシップによる地域開発援助を核として活動しています。教育、保健衛生、農業指導、水資源開発、収入向上、指導者育成、HIV/ エイズ対策など幅広い分野で長期的な支援を行っています。国連機関や政府機関と連携した開発援助事業にも積極的に取り組んでいます。



### 緊急人道支援

災害発生時の緊急支援や、紛争などのために生じる人道支援のニーズに対して、食糧、衣料、毛布、テントなどの支援物資の配布や、人々の精神的ケアなどの緊急人道支援を実施しています。緊急期が過ぎた後は、人々の生活の回復に向けて、保健衛生、教育、農業復興、住宅再建など、生活基盤の復興を支援しています。



### アドボカシー

貧困や紛争の原因について声をあげ、問題解決のために政府や市民社会に働きかけることを、アドボカシーといいます。ワールド・ビジョンは、世界が子どもにとって安全で平和な場所になることを目指して、アドボカシー活動を行っています。「子どもの権利」を促進するための活動のほか、G8 サミット開催時には署名キャンペーンやロビイング活動を行い、子どもたちを守ることが国際政治の中でも優先事項となるように働きかけています。

# ⑥ 東日本大震災緊急復興支援について

## 被災地の子どもたちの、笑顔を取り戻すために

WVJは震災発生2日後に被災地へスタッフを派遣して以来、被災した方々の生命を守り、子どもたちが将来への夢や希望を抱き、健やかに成長できる地域力の再生を目指して、主に宮城県南三陸町、気仙沼市、岩手県宮古市で約30万人を対象に緊急復興支援を行いました。



### 子ども支援

子どもたちが守られ、復興の力になることを目指して、宮城県南三陸町を中心に、チャイルド・フレンドリー・スペースの運営、給食センター再開支援、放課後児童クラブ再開支援、まちづくりプロジェクトを通じた子ども参画の促進などを行いました。



### 雇用確保と生計向上

子どもたちの健やかな成長のため、保護者が安定した収入を得られるよう、宮城県気仙沼市、南三陸町、岩手県大槌町で、地域の基幹産業である水産加工業の復旧を支援しました。



### 仮設住宅やその周辺地域でのコミュニティづくり

宮城県南三陸町、気仙沼市、岩手県宮古市で、震災によって失われたコミュニティのつながりを取り戻すことができるよう、仮設団地での自治体形成支援などを行いました。



### 子どもを守るための防災対策

将来の災害から子どもたちを守るため、指定避難所となっている気仙沼市の小・中学校へ太陽光発電システム、井戸、防災倉庫の支援を行ったほか、災害に強いまちづくりのため、潮位観測システムの支援、避難標識の設置や避難マップ・防災行政無線個別受信機の配布などを行いました。



### 福島県被災者への支援

新潟県柏崎市で避難生活を送っている福島県被災者の方々のために、主に柏崎市を通じて、見守り支援や、交流のためのサロン活動、子どもたちのための野外イベントなどを行いました。